

火山噴火予知連絡会拡大幹事会 議事録

日 時：平成12年3月28日（火）10時30分～11時45分

場 所：気象庁地震火山部会議室

出席者：幹 事：井田、渡辺、藤井(敏)、岡山、早川（代理：文部省）、小宮

委 員：森

オブザーバー：中辻（国土庁）

事務局：三上、鉢嶺、佐久間、佐藤、碓井

有珠山の火山活動について

- ・有珠山で3月27日20時から地震発生（回数基準を3μmに変更）。
- ・地震回数はこの5年ほど若干増加傾向。3月26日までは異常なかった。

＜見解の検討＞

- ・有珠山の活動の見解について、北大有珠火山観測所からのコメント説明。
- ・震源の深さ1～2kmということはなく、3～4kmとしたい。
- ・1～2日以内噴火というより、10日以内噴火6例あり。→ほとんどが数日以内。
- ・地殻変動観測の連続データはないが、北大の定期観測（年2回光波、水準測量）によれば、1999年春まで、山体沈降・収縮で異常はなかった。
- ・震源位置は1977年活動末期の延長上。
- ・噴火場所の予測は見解案に表現できないか？可能性高いとか。防災上で必要。
- ・地震活動は周辺のあちこちに起きているので、言えない。1977年はデータが少なかった。火砕流が広がった事例もある。可能性を考えると何でもあるので、はっきりしたことは言えない。防災上は一気に様々なことが起きる。
- ・震源の移動で浅くなれば危険であるが、震源精度が問題。
- ・観測強化体制を進めている。機動観測班（札幌管区气象台）は今朝出発。
- ・地殻変動データも必要。繰り返し測量や、ミラーが残っていれば、山腹から山頂へ光波測量など。
- ・10時48分に伊達で震度1の有感地震があった（初めての有感地震：臨時火山情報発表）。
- ・1977年は地震活動が中だるみした後、大きな地震が増えて噴火に至った。
- ・災害を見込んだ表現は入らないか？「厳重警戒」とはどういうことを想定しているか？
- ・噴火の可能性はある。入山規制は必要。
- ・どの辺りでどのような噴火があるか言わないと、具体的な警戒体制がとれない。次の情報を待つのか、直ちに警戒態勢をとるのか？火口と周辺だけか、街中もか？
- ・最初がどのような噴火で始まるかわからず、現状はそこまで言えない。情報の続きを待つ。
- ・観測強化しても直前噴火は言えない。
- ・噴火が始まったらすぐ逃げられるように情報に注意する。
- ・次の情報が出ても（例えば地震が浅くなっても）、噴火の予測はできない。
- ・1977年の時は、1日前に主地震があった。山頂部の北寄りに、深さが若干浅くなった。地殻変動は段差ができたり、ロープウェイのロープがたるんだことが報告された。
- ・「厳重警戒」は最大級の警戒であり、直ちに避難指示となるもの。現段階では、「警戒」だけにする。

火山噴火予知連絡会拡大幹事会 議事録

日 時：平成12年3月29日（水）10時00分～10時50分

場 所：気象庁総務部総務課会議室

出席者：幹 事：井田、渡辺、岡山、中辻（代理：国土庁）、早川（代理：文部省）、小宮

委 員：森

オブザーバー：中辻（国土庁）

事務局：三上、鉢嶺、佐久間、佐藤、碓井、山里

有珠山の火山活動について

＜資料説明＞

- ・地震回数、本日より増加し、規模も大きくなる傾向。有感地震、1時間に15回くらい。
- ・一元化震源：分布図、主な震源が南にあるのは誤差。M-T図、この時間まで最大M3.4。30分前にM3.5発生。
- ・北大有珠の震源：28日0時～6時、北西斜面に集中。深さは3～6kmくらい。06時から12時、同じところ、深さは4～7km。12時～18時、震央は少しバラバラ、カルデラ内にも。深さは3～5km。18時～24時、震央ばらついている、カルデラ内か